
とある科学の聖杯戦争

九条 水菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある科学の聖杯戦争

【Nコード】

N8911Z

【作者名】

九条 水菜

【あらすじ】

学園都市名門・常盤台中学に通う第三位の能力者…『超電磁砲の御坂美琴』は信号無視してきたトラックに轢かれて…気が付いたら『Fate/Zero』の世界に迷い込んでいただけでなく…とあるナルシスト魔術師の婚約者に憑依してしまったのだ…た！！果たして美琴は生き残れるのか！？そして元の世界に戻る事が出来るのか！？…他の作品優先で更新していくので、本当に不定期です。よろしくお願いします！！

1話 もし聖杯があったら…

side 御坂美琴

「お姉さま！私のサーヴァントになってくださいー！！」
「……いきなりどうしたの黒子？」

ベッドの上でゴロゴロと読んでいた漫画から顔を上げる。

…私の目の前には、いつになく真剣な顔立ちで問いかけるルームメイトである白井黒子。

「サーヴァントって……従者みたいなやつでしょ？
なんで私がアンタの従者にならないといけないのよ？」

「そこを何とか！！」
「一日…いや、一時間だけでも構いません！！白井黒子、一生のお願いですわー！！」

土下座までして頼み込む黒子。

「お願いですわ、お姉さまー！！協力してくれたら限定モデルのゲコ太ストラップを差し上げますので…どうか私のサーヴァントにー！！」

限定…モデル…か…

「…まあ…一時間くらいなら…遊びに付き合っただけでも構わないけど…」

その時、キラッと怪しく光る黒子の目……

「ふふふ……この時を待ってましたわ……！……

さあ、令呪を持って命令しますの、お姉様……！……

今晚の夜のお相手を命令しますわ……！……」

「……はっ！？ちよ……何を……！！……」

「お姉様……！！……！！……」

白井黒子が自身の能力…テレポート空間移動で一気に私の前まで移動してきた。どさり、っと身体の上に乗っかってくる黒子。

ちよ……なに……なに……？……ってか……この子本気なの……？

私は女とやる趣味ないんだけど……！！……

「ちよ……っと……！……何するの……って……あっ……うん……」

服の上から私の身体を這う黒子の手……

なんか反射的に変な言葉が口から洩れてしまった。

うう……そんな気ないのに！！！！身体が勝手に……！！

なんとかして私は抵抗しようとして手をはねのけようとするけど……呪の影響なのか力が全く入らない。

「う……うそ！？なにこ……れ！？」

「うふふ……そこまで怖がらなくても優しくいたしますよ……お・姉・様。」

うわああああー！！

黒子の顔がどんどん近づいてきて……そして……！！！！

「……………!」

ガバリっと起き上がる私。

……………何のことはないフツーに私の部屋……………
私は机の上で伏していた。

……………ああ……………なんだ夢か……………よかった……………

私はふう……………つと肩を落とした。

だって……………現実には『令呪』なんてあるわけないじゃない。

たぶん……………寝る前に読んでいた本……………『Fate/zero』のせ
いかもしれない。

本当にこの本って面白い！！原作の『Stay night』の方も面白いけど、それとは違った面白さがあるんだよね。

「にしても、聖杯……かあ………」

私だったら……何を願おっかな……

……その時にふと脳裏に横切った一人の少年の顔……
あの人を独り占め出来たら……

って……いやいや！！何を考えてんのよ、私！！あ……あんな奴、
どうも思っただけだから……！！

「はあ……そういえば、今日は月曜日だったわね………」

髪を軽くとかすと、コンビニに立ち読みをしに外に出る。

ヒューーっつと肌を突き刺すような風が吹いている。
うう……さむい……もっと上着て来ればよかった……

「あっ！御坂さん……！」

「あっ、ホントですね……！」

向こうの道路から手を振る二人の人。

その二人を見たとき、私も大きく手を振りかえした。

彼女らは私と黒子とは別の中学に通う友人……花のカチューシャを
つけた子は風紀委員ジャッジメントもしている女の子……初春飾利。もう1人の長い
黒髪の少女は佐天涙子。

「御坂さん！今ヒマですか？」

「私達、セブンスミストに行くところなんですけど、よかったら一
緒にどうですかー？」

「別にかまわないわよ。今からそっち行くねー！」

コンビニは後回しにしよう。だって、あの2人と話すのって結構楽
しいしね。

……私はちゃんと信号が青になってから渡った。

そう！！ちゃんと『青』になってから渡ったのよ！！だから、私に
落ち度はないわ！！

……そう……気が付いたときには、もう遅い。

私の身体は信号無視をしたトラックに激突して……

「……………」

鏡の前に移る自分を見る……………。

……………結局一晩寝ても変わらなかったってことは夢じゃないんだよね？

私は御坂美琴……学園都市第三位の能力者で二つ名が『超電磁砲』
レールガン
……。

実際に力をためればご覧のとおり、バチバチって青い火花が前髪から飛び散らせることができる。

……でも……今は違う。

トラックにぶつけられて、死んだと思ったら……

とんとん

控えめなノックが響いた。

私はため息をつくどドアを開けた。

見るとそこにいたのは……メイドさん。

私に90 頭を下げる。そうしてこういった。

「失礼します。」

婚約者の『ケイネス・エルメロイ・アーチボルト』様のご到着にな
られました。

そろそろご支度は終わりましたでしょうか……

『ソラウ』お嬢様。」

そう……今の私は『f a t e / z e r o』に登場するランサーの主^マ人^スであるケイネスの婚約者……最後は拷問に合った上に銃弾の雨を浴びて死ぬ運命の……『ソラウ・ヌアザレ・ソフィアリ』に憑依していたのだ……

1話 もし聖杯があったら…（後書き）

……なんかヤバいシーンでスタートしてしまった……

誤字脱字その他もろもろありましたら、感想お願いします！

あと、現在は他の作品優先なので、投稿は遅くなるかもしれませんが。

よろしくお願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8911z/>

とある科学の聖杯戦争

2011年12月28日00時54分発行